

＜学校教育目標＞

- （探求）夢をもち、学びを大切に人 ○（協働）自分を大切にし、他を思いやる人 ○（健全）心も体も健やかな人

＜目指す児童・生徒像＞

- (1) 素直で明るい児童・生徒  
◆誰とでも明るく挨拶ができる子供  
◆相手に対して思いやりの心で接し、笑顔あふれる子供  
→道徳教育・人権尊重教育、特別活動の充実
- (2) 目標をもって挑戦する児童・生徒  
◆夢や目標をもち、その実現に向け、粘り強く努力する子供  
→キャリア教育の推進、道徳教育・人権尊重教育、特別活動の充実  
◆自分に自信をもち、心身ともに健康で安全に生活できる子供  
→学校ホームページ、学校配信メール、学校（学年）だより、家庭との情報共有の充実
- (3) よく考える児童・生徒  
◆話をよく聞き、心と頭で考える子供  
◆自分の意見や考えを相手に伝えることができる子供  
→協働学習の充実、基礎的・基本的な学力の向上
- (4) 地域を大切に作る児童・生徒  
◆自ら暮らす郷土への理解を深める子供  
→環境教育、地域探検の充実  
◆地域行事に積極的に参加し、人々との交流を通して社会性を育む子供  
→地域関係団体との連携の強化

＜目指す学校像＞

- (1) 児童・生徒がのびのびと生活できる学校  
◆子供たちが安全で安心して生活できる学校づくりの推進  
→いじめ・嫌がらせの未然防止、学級での居場所づくり、教員と児童・生徒の信頼関係の確立  
◆子供たちが、生き生きと楽しく学ぶ学校づくりの推進  
→魅力ある授業、基礎学力の習得、学校行事、特別活動の充実
- (2) 保護者にとって児童・生徒を安心して通わせることができる学校  
◆適切な情報発信  
→学校ホームページ、学校配信メール、学校（学年）だより、家庭との情報共有の充実  
◆ガイダンス・カウンセリング機能の充実  
→保護者会、三者面談、スクールカウンセラーとの面談、キャリアカウンセリング機能の充実  
→スクールソーシャルワーカー、スクールロイヤー、巡回心理士との連携の強化
- (3) 地域に信頼され、ともに歩み、選ばれる学校  
◆適切な情報発信  
◆地域協働の学校づくり  
→コミュニティスクール事業の推進、学校運営協議会の機能強化  
地域行事への参加、環境教育の充実
- (4) 教職員が生き生きと働くことができる学校  
◆教職員が意欲的に教育活動に取り組むことができる環境づくりの推進  
◆互いに高め合う教職員集団の構築

＜目指す教師像＞

- (1) 愛情と理性をもって、本気で子供に関わる教師  
◆教育公務員としての自覚をもち、情熱をもって職務を遂行する教師  
◆子供の人権を重んじる教師  
◆子供・保護者への誠実な対応を通して、信頼を得る教師
- (2) 資質向上に向け、自ら学び続ける教師  
◆担当する授業の魅力十分に伝え、子供たちを意欲的な取組に導く教師  
◆新たな課題へ真摯に向き合い、解決すべく挑戦し続ける教師  
◆研修に積極的に取り組むことで自らの専門性を高める教師
- (3) 和を大切にしつつ、組織力向上に向け努力する教師  
◆組織の一員として、責任をもって自らの職責を果たす教師  
◆互いに切磋琢磨し、成長する教師  
→ゆくのき学園「One Team」の推進
- (4) 保護者・地域から信頼される教師  
◆情報発信を続け、迅速・誠実な対応を実践する教師  
◆地域との協働による授業実践、地域行事へ積極的に参加する教師
- (5) 施設一体型小中一貫校の特色を生かす教師  
◆9年間を見通し、校種の特色（専門性）を生かした教育実践を進める教師  
◆小中連携した教育活動を積極的に推進する教師

＜中期的・短期的目標＞

- |  |   |  |   |
|--|---|--|---|
| <p>(1) 目指す学校、児童・生徒像の実現に向けた教育課程の推進<br/>◆積極的な情報発信及び共有<br/>◆家庭や地域との連携強化<br/>◆環境教育、キャリア教育の推進</p> | <p>(2) 授業改善を通じた確かな学力の育成<br/>◆児童・生徒にとって「わかる できる 考える」授業の展開<br/>◆小中連携による個別学習、協働学習を重視した児童・生徒の育成</p> | <p>(3) 多様性を重視し、自他を尊重する意識の醸成<br/>◆他者理解・自己理解を通じた自己肯定感の高揚<br/>◆人権教育、ESD（持続可能な開発のための教育）の推進</p> | <p>(4) 心身ともに健康で、安心安全な学校生活の推進<br/>◆運動の習慣化及び基本的生活習慣の定着<br/>◆校内における安全な生活の整備及び危機管理体制の確立（事故防止、防災、感染症対策等）</p> |
|--|---|--|---|

＜目標達成に向けた具体的な計画・取組＞（下線部は今年度の重点目標）

- |   |  |  |  |
|---|--|--|--|
| <p>(ア) 積極的な情報発信及び共有<br/>◆定期的にホームページを更新し、各種たよりを校内掲示することで、学校生活の見える化を行う。<br/>◆Google ClassroomやYouTubeを活用し、適宜情報発信を行う。<br/>◆保護者アンケート・行事アンケートの回収率を向上させ、具体的な改善点を明確にする。</p> <p>(イ) 家庭や地域との連携強化の推進<br/>◆日々、保護者への連絡・相談を迅速かつ誠実に行う。<br/>◆地域団体（相原保善会、大戸源流森の会、人・街・夢ネットワーク・青少年健全育成・ふれあいホタルの会、芝生管理等）や近隣大学・幼保小中学校との連携事業を進める。<br/>◆学校運営協議会（コミュニティスクール）を年5回以上開催し、今後の方向性等を確認、改善を図る。</p> <p>(ウ) 環境教育、キャリア教育の推進<br/>◆地域の特色を生かした9年間を通じた環境教育の実践の充実を図る。<br/>◆夢や目標をもつことができるよう、自己肯定感を高め、将来への見通しをもつための取組を行う。<br/>◆計画立案や計画的に物事を実行するための取組を行い、キャリア・パスポートの効果的な活用し、自己肯定感・自己有用間の育成を図る。</p> | <p>(I) 児童・生徒にとって「わかる できる 考える」授業の展開<br/>◆学習意欲及び基礎学力の向上に向けて、タブレット端末などのICTの効果的な活用を行う。<br/>◆自主学習教材 navima を積極的に活用し、家庭学習の定着を図る。<br/>◆「学習の連続性」を確保するため、テレストディ等を進める。<br/>◆放課後英語教室、スヌーピーミュージアム、MEPS、ALTを活用した「えいごのまちだ推進事業」を確実に進める。</p> <p>(O) 小中連携による個別学習、協働学習を重視した児童・生徒の育成<br/>◆小中教員が連携し「ゆくのきモデル（個別学習・協働学習の推進）」の実践を通して、9年間の学力向上を見据えた学習活動を推進する。<br/>◆個別学習を積極的に取り入れ、自ら考え、課題解決に向けた態度を養う。<br/>◆各教科における年間指導計画に基づいた協働学習を通して、探究活動を充実させる。<br/>◆国語、理科、社会、音楽、体育、家庭科等で年間を通し、小中教員による連携授業を実施する。<br/>◆「町田市教育プラン（2019～2023）」実現に向けての取組を推進する。<br/>◆「ゆくのき塾」「学びの場」を通して、学習意欲の向上を図る。</p> | <p>(カ) 他者理解・自己理解を通じた自己肯定感の高揚<br/>◆「考える道徳」「議論する道徳」を推進し、道徳実践意欲や規範意識を高める。<br/>◆特別活動を中心に他者との「合意形成」が図られる活動を推進し、よりよい人間関係を構築するための基礎的な資質・能力の育成を図る。<br/>◆個に応じた合理的配慮を推進し、個々の課題を克服させることで粘り強くやり抜く力を育み、自己肯定感の高揚を図る。<br/>◆hyper-QUを活用し、児童・生徒の学校生活における満足度や意欲を把握し、個々の自己肯定感、自己有用感の高揚を図る。</p> <p>(キ) 人権教育、ESD（持続可能な開発のための教育）の推進<br/>◆適切な児童・生徒理解に努め、人権教育に関する研修を定期的開催する。<br/>◆児童・生徒の日常的な活動（委員会・クラブ・部活動・縦割り班活動・学校行事等）を通して、主体的な態度、他社と協力する力を育成する。<br/>◆各教科及び総合的な学習の時間などを関連付け、全教育課程を通して、児童・生徒にグローバルな資質（Think Global Locally）を養う。<br/>◆自ら考え、探究・体験する活動を通して、未来像を予測し計画を立てる力や多面的・総合的に考える力を育成する。</p> | <p>(ク) 運動の習慣化及び基本的生活習慣の定着<br/>◆体力テストの結果分析を活用し、体育科及び保健体育科の授業や遊びを通じた運動習慣の日常化を図る。<br/>◆家庭と連携した「早寝・早起き・朝ごはん」の習慣定着を目指した健康教育を推進する。<br/>◆生徒とのやり取り帳を通じた規則正しい生活習慣の定着を目指す。</p> <p>(ケ) 校内における安全な生活の整備及び危機管理体制の確立<br/>◆「よい子の一日」に基づく安心安全な生活を推進する。<br/>◆命の大切さに関わる指導（アンケート、SOSの出し方等）・生活安全指導（SNS・防災等）を着実に推進する。<br/>◆いじめの迅速な認知や組織的な対応を可能とする「いじめ対策チーム」の質的向上を図る。<br/>◆問題行動・安全・健康面等の危機管理情報を共有する。<br/>◆外部機関（児童相談所、子ども家庭支援センター等）、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、スクールロイヤー、民生児童委員等と連携を取りつつ、不登校児童・生徒の減少に努める。<br/>◆特別な支援を要する児童・生徒の実態を確実に把握し、組織的な支援体制を構築するため、校内委員会の充実を図る。<br/>◆サポートルーム、専門員、支援員、巡回相談員等と連携し、特別支援教室（教育）の充実を図る。<br/>◆新型コロナウイルス感染症対策を徹底する。</p> |
|---|--|--|--|